

インフレの再加速を示唆した米CPI

ポイント① 米CPI、31年ぶりの大幅上昇

11月10日に発表された10月の米CPI（消費者物価指数）は、前年同月比で6.2%上昇し、市場予想を上回る、1990年11月以来の31年ぶりの大幅な伸びとなりました。前月比では、このところ減速基調が続いていましたが、10月は+0.9%と、9月の同+0.4%を上回り、インフレが再加速したことを示唆する結果となりました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコア指数も、前年同月比で+4.6%、前月比で+0.6%と、いずれも9月の水準を上回る伸びをみせています。

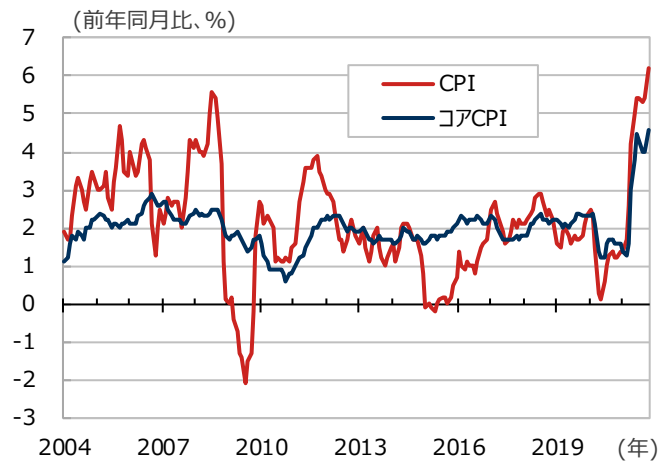
ポイント② FRBの早期利上げ観測高まる

項目別では、大半の項目が上昇したものの、とりわけ需給のひっ迫や供給網の混乱が続く、エネルギー、食品、中古車などが大幅な上昇をけん引しました。一方で、今回のCPI内容をもってしても、FRB（米連邦準備制度理事会）による「インフレは一時的である」との見解に変化はない見通しですが、需給緩和や供給制約正常化によってインフレが鎮静化する時期は、FRBの当初想定よりも遅れることが予想されており、量的緩和の縮小ペースの加速や、利上げの開始時期が早まる可能性もありそうです。

ポイント③ 米長期金利は大幅に上昇

市場ではCPIの予想以上の上昇に伴い、早期利上げの観測が強まったことで、米10年債利回りが一時1.6%近くまで上昇したほか、債券市場の期待インフレ率の指標である、10年ブレイクイーブン・インフレ率（通常債の利回りとインフレ連動債の利回りの差）も2.7%台まで上昇しました。また、長期金利の上昇で全面的に米ドル高が進み、米国株は成長株を中心に軟調な推移となりました。

米消費者物価指数の推移



期間：2004年1月～2021年10月、月次
 (注) コアCPIはエネルギー、食品除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ブレイクイーブン・インフレ率と為替の推移



期間：2019年12月31日～2021年11月10日、日次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 11月12日 米ミシガン大学消費者マインド指数 (11月速報)
- 11月16日 米小売売上高、鉱工業生産指数 (10月)